

お知らせ

講座・展示のご案内

古文書入門講座

平成23年5月21日(土) 13:30~15:30
 平成23年5月28日(土) 13:30~15:30
 平成23年6月 4日(土) 13:30~15:30
 定員40名(要申込) 無料
 講師:文書館職員 会場:文書館研修室
 ※ 問い合わせ・申込みは文書館まで。

文書館月替展示

平成23年4・5月
 「文書館でみつけた! (1) -私と資料との出会い- (仮)」

平成23年度の文書等点検期間

4月11日(月)~15日(金)は文書等点検のため、
 休館します。

文書館の研修室を
 ご利用ください。



- 文書館の研修室(定員40名)を会議や打ち合わせなどに利用できます。
- 使用する半年前の月の初日から予約を受け付けます。詳細などお気軽に文書館にお問い合わせください。

ご利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで
- 休館日
月曜日(休日は除く)
休日の翌日(土、日、休日は除く)
文書等点検期間(年間10日以内)
年末年始(12月28日~1月4日)
清掃整理日(12月以外の第4木曜日、休日の場合は翌日)
- フレンドリーバス(無料)をご利用ください。



古文書にチャレンジ

何と読むでしょうか? (解答は下にあります。)



「商売往来絵字引」 年末詳



(ヒントはこの絵)

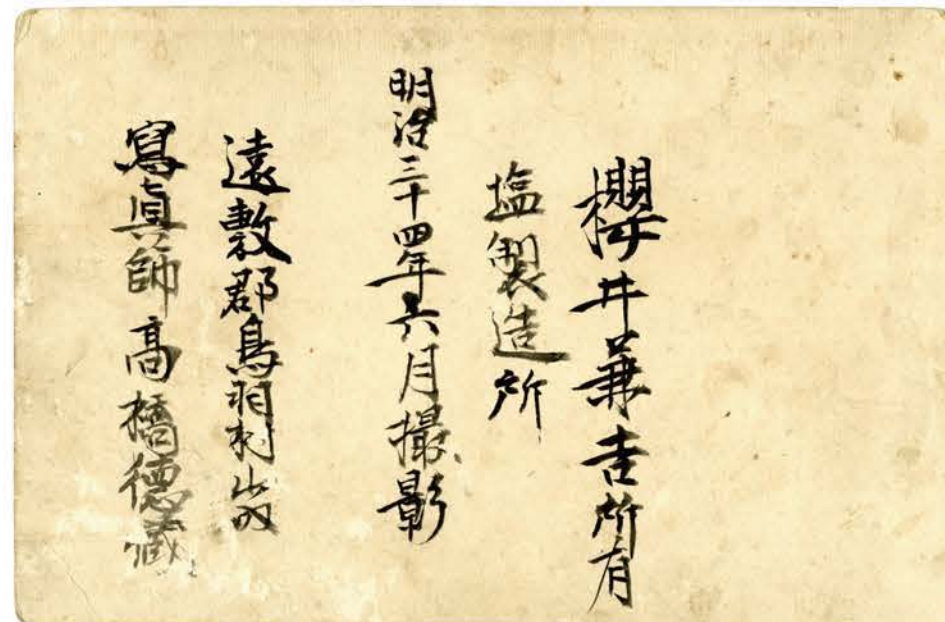
勝見宗左衛門家文書 B0037-00709 当館蔵

編集後記

たより第17号をお届けします。今号では、今年度刊行の叢書の特集しました。今後も文書館に親しみをもって利用していただくために、さまざまな取り組みを行っていきます。

文書館だより

Fukui Prefectural Archives



〔(桜井兼吉所有塩製造所写真)〕1901年(桜井市兵衛家文書 N0055-00756 当館蔵)

第17号目次

特集 春嶽の生きた時代	2
公文書紹介	4
寄贈・寄託資料紹介	5
活動報告	6
お知らせ	8

第17号
2011.3

福井県文書館

文書館だより Fukui Prefectural Archives 第17号

平成23年3月23日発行

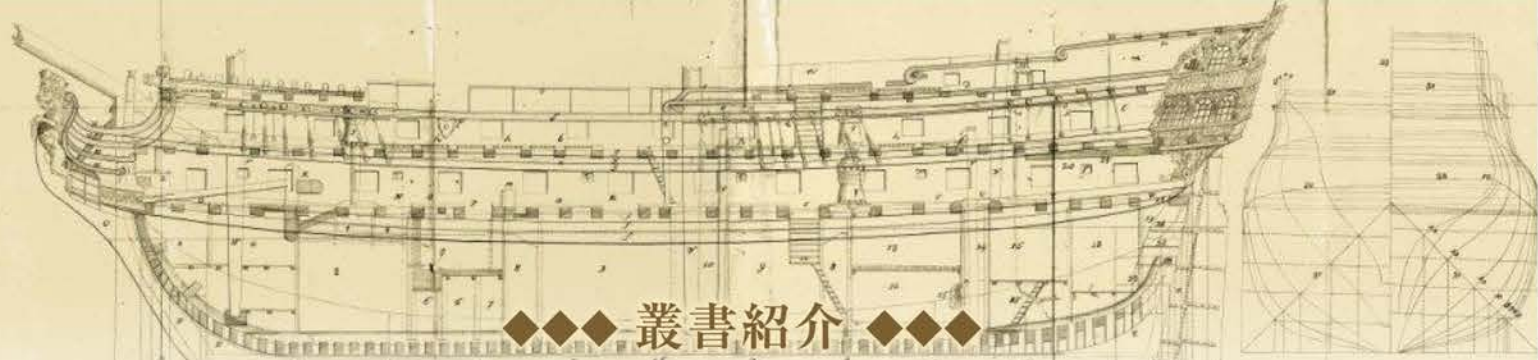
編集・発行 / 福井県文書館

〒918-8113 福井県下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <http://www.archives.pref.fukui.jp>

電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp





特集

春嶽の生きた時代

～「家譜」から見た幕末・明治～

▲「シケイブスホウ重艦図写」(部分)
「シケイブスホウ」はオランダ語で「造船」を意味します。福井藩は安政4年8月、幕府を通じて洋書を輸入しており、その中に「シケイブスホウ」の書名が見られます。翌9月には幕府に「ゴトル船」の製造を願ひ出ており、福井藩が海防や商業貿易に大きな関心を寄せていたことが分かります。

松平文庫 福井県立図書館保管

このほど文書館では資料叢書第6巻から第8巻として『越前松平家譜 慶永3～5』を刊行する運びとなりました。昨年春に刊行した第4巻・第5巻とあわせて、慶永代の家譜全巻の活字化が完了することになります。

「家譜」は初代福井藩主結城秀康から、最後の藩主松平茂昭にいたる253巻に加え、明治以降の慶永(春嶽)の記述が追加して17巻存在しており、270巻にわたって越前松平家の記録が綴られています。このうち今年度刊行する第6巻から第8巻では、1854年(安政元)から、慶永の死去する1890年(明治23)までをとりあげます。

「家譜」の記述は、慶永年間までと明治以降で内容にかなりの差があります。江戸時代には藩内の法令や財政・自然災害など、藩政全般にわたる記述が少なからずみられ、幕末の福井藩の状態がうかがい知る基礎的な資料となっています。

これに対し明治以降の巻では、主に松平家および慶永自身の交際に多くの紙数が費やされますが、明治初年は慶永が中央政府の要職にあったこともあり、多くの意見書などから慶永の政治に対する考えが読み取れます。



▲「家譜」(表紙)
越葵文庫 福井市立郷土歴史博物館保管
今年度で慶永代全53冊分(天保9年～明治23年)のすべてを活字化。

御問答有之
我等申候者、今般異船渡来二付而八御処置振如何被為在候哉、乍恐昼夜不安寝食罷在候、昨年十一月中重キ上意之趣被仰出も有之、且先日触達も有之候事故、定而御許容之可否不被仰聞儀与者奉存候得共、神奈川辺之風説二而者通信・通商御免も可被仰付哉之旨承知仕候、品川御殿山辺御固メも被仰付候

▲「家譜」(部分、安政元年2月)

御問答有之
我々の今般異船渡来二付而八御処置振如何被為在候哉、乍恐昼夜不安寝食罷在候、昨年十一月中重キ上意之趣被仰出も有之、且先日触達も有之候事故、定而御許容之可否不被仰聞儀与者奉存候得共、神奈川辺之風説二而者通信・通商御免も可被仰付哉之旨承知仕候、品川御殿山辺御固メも被仰付候

越葵文庫 福井市立郷土歴史博物館保管

慶永が当時老中首座であった阿部正弘の詰問に答え、再度来航したペリー艦隊への対応について呈上した意見が記されています。

講座・講演会

◆古文書初級講座

10月9日(土)、16日(土)、23日(土) (3回シリーズ)

講師：文書館職員

越前松平家の公式記録である「家譜」を教材とした講座を行いました。春に実施した入門編から少しステップアップした内容となりました。



◆県史講座①

「文久三年の龍馬と福井藩」

11月13日(土)

講師：文書館古文書調査専門員 吉田 健

未刊行資料をもとに新たな坂本龍馬像を紹介しました。



◆県史講座②

「16世紀の世界経済と信長・越前」

2月19日(土)

講師：安田女子大学講師 高木 久史 氏

織田信長支配下の越前について、貨幣政策を中心に紹介しました。



◆講演会

「他国修行 -福井藩教育改革の軌跡-」

2月12日(土)

講師：東京農業大学教授 熊澤 恵里子 氏

幕末維新期の藩士子弟の遊学や、松平康荘の海外留学について紹介しました。



表紙写真：「(桜井兼吉所有塩製造所写真)」1901年(明治34) 桜井市兵衛家文書 N0055-00756 当館蔵

桜井家の位置する食見は常神半島の西側に位置します。食見の人々は漁業権を持たず、江戸時代初頭から製塩業に従事してきました。桜井市兵衛は1665年(寛文5)には11人ほどの食見塩師の筆頭にありました。また、1895年(明治28)の第4回内国勸業博覧会や、1897年の第2回水産博覧会に関係した書類や褒状が残されており、この写真が撮られた明治30年代に入るまで熱心に製塩業に取り組んでいました。

この写真は、裏書から遠敷郡鳥羽村山内の写真師、高橋徳蔵氏によって、明治34年6月に撮影された、桜井兼吉氏の塩製造所の写真であることがわかります。地元の写真師によって撮影された、地元の様子を写す貴重な1枚です。



地域の様子が見える
古写真はありますか?

写真は歴史を後世に伝える貴重な資料です。お手元に地域の様子が見える古写真がありましたら、文書館までお知らせください。

◆◆◆活動報告◆◆◆

今年度の新たな取組み

◆まちづくりとの連携

『福井県文書館研究紀要』第7号(2010年3月)に、館野和己氏(奈良女子大学文学部教授・文書館記録資料アドバイザー)の論文「西大寺領越前国赤江庄の復元」が掲載され、坂井市高椋地区が西大寺領赤江庄の比定地とされました。この論文について、同地区でまちづくりを進める方たちから、地域の古代のようすを知る貴重な研究成果として反響がありました。

文書館では、2月に「資料をまちづくりに活かす」というテーマで展示を行いました。

文書館の資料をまちづくりに役立ててみませんか?

文書館には県内の歴史を伝える資料が数多くあります。歴史をテーマにしたまちづくりに、ぜひ文書館の資料をご活用ください。

月替展示「資料をまちづくりに活かす」
—たかむく歴史玉手箱—



◆大学との連携「文書館学生サポータープログラム」の実施

福井大学教育地域科学部との連携企画(6回シリーズ)をスタートさせました。社会科の教員を志望する学生が、郷土の資料を教科指導に活用する力をつけることがねらいです。

前半「ふくい歴史資料にふれる」

文書館で所蔵する江戸・明治時代の資料について説明を受け、資料目録の作成や、集塵機を使ったクリーニングを行いました。

資料のクリーニング▶



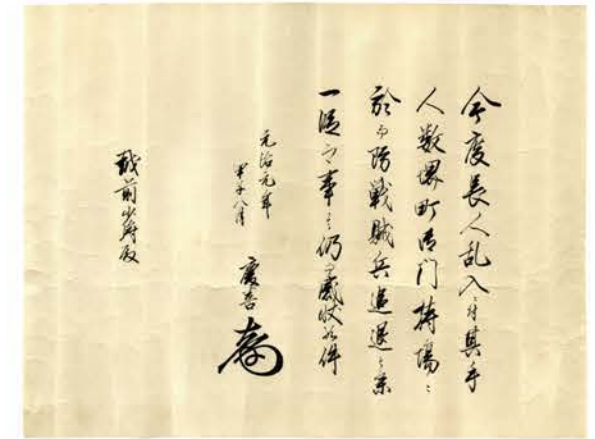
後半「ふくい歴史資料をひろめる」

文書館の目録データベースを使った郷土資料の検索法を学び、資料を用いて、越前市・鯖江市に関するテーマ研究を行いました。さらに、研究の成果を、武生高校でスライド発表しました。

越前市・鯖江市テーマ研究発表会▶



▲松平慶永肖像写真
国立国会図書館提供
慶応年間の撮影と推定される、40歳ころの肖像写真です。



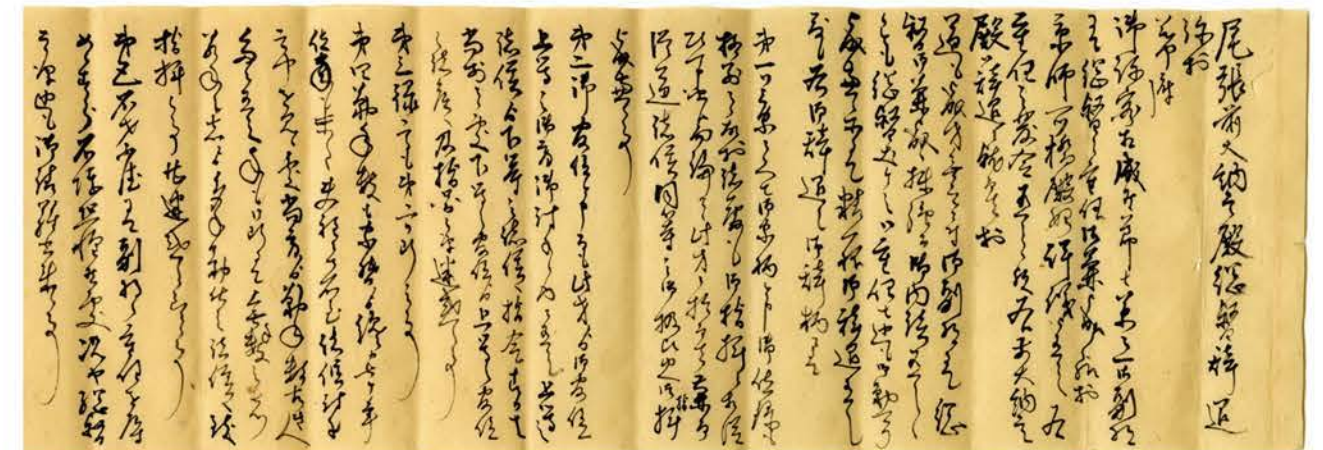
▲一橋慶喜感状
松平文庫 福井県立図書館保管
禁門の変では、福井藩は御所の堺町御門を防衛し、長州藩の御所乱入を阻止しました。これは当時禁裏守衛総督だった一橋慶喜が出したものです。

第6巻ではペリーの再来航にはじまり、安政の大獄、復帰後の政事総裁職就任、禁門の変や水戸の天狗党への対応、長州出兵、大政奉還および王政復古など、目まぐるしく移り変わる幕末の政局のようすがみられ、福井藩関係では、藩政改革の中心が節儉と軍事力の増強から、交易や産業の振興へと転換していくようすがうかがわれます。

明治期の第7巻および第8巻では戊辰戦争の始まりから、新政府に対する慶永のさまざまな提言、慶永が政府の職を退いた後では松平家の族長としての業務、多くの儀礼など、華族の長が果たした役割に関する記事が多くみられるようになります。

また、慶永は明治以降に多くの著作を残しましたが、他見無用とされた「逸事史補」に関わるエピソードなども具体的に記されています。なお、慶永は安政の大獄で藩主を退いていますので、それ以降の福井藩に関することから次は藩主茂昭の「家譜」も参考になります。また、草稿とされる「越前世譜 慶永様御代」の写真本は福井県立図書館で閲覧することができ、「家譜」に採録されなかった事項も補うことができます。

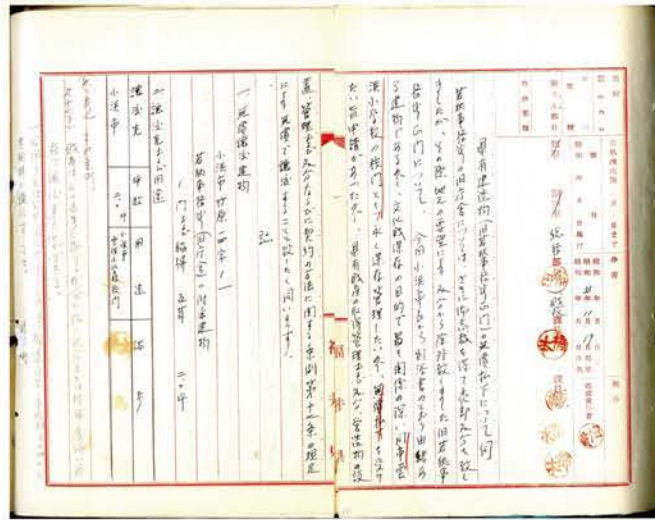
第4巻・第5巻とあわせて多くの皆様にご活用いただけることを願っています。



▲慶永自筆対問(部分、元治元年)
松平文庫 福井県立図書館保管
長州出兵にあたり副総督に任命された藩主松平茂昭に、もし元尾張藩主徳川慶勝が総督を辞退した場合、総督兼任を固辞するよう指示した自筆書状です。

◆◆◆ 公文書紹介 ◆◆◆

ある門と塀の処分 —「建物工作物立木処分」から—



◀「建物工作物立木処分」 4326より
財政課

地方公共団体が行政上の目的をもって建てた建物は公有財産として位置づけられますが、その目的の終了あるいは施設の移転などによりその建物が不要になるとことがあります。この場合、その建物は処分されることになりますが、その際、公有財産の処分にかかる公文書が作成されます。

さて、現在福井県立若狭高等学校（小浜市千種1丁目）にある「旧順造館正門」は、小浜藩の学問所順造館唯一の建築遺構で、1834年（天保5）に建てられたものです（小浜市指定有形文化財）。しかし、かつて福井県若狭事務所の正門として使用されていたことを知る人は少ないでしょう。

1958年（昭和33）当時、福井県若狭事務所は南川に面した小浜市一番町にありました。ここはもともと順造館が設置された場所でしたが、明治以降は遠敷郡役所、小浜町役場、県若狭出張所など地方行政の拠点の地となっていました。ところが、建物の老朽化を機に県若狭事務所は同市四谷町に移転新築されることになり、旧若狭事務所であった県有建造物は今後の使用計画もなく不要と判断され、公売にかけられることになったのです。

実は、当初公売候補の中には門と塀が含まれていました。これが旧順造館正門と脇塀でした。その文化財的価値から地元小浜市の要請を受けて、この門と塀は公売対象からはずされ、さらに最も関係の深い小浜市雲浜小学校の校門という新たな用途を与えられることになり、小浜市に無償譲渡されることが承認されました。これらの経緯が「昭和32～33年度 建物工作物立木処分」からうかがうことができます。

その後、南川の改修に伴う小学校の移転を機に、この門と塀は1980年（昭和55）さらに移築され、現在は伝統ある若狭高等学校の正門として、次代を担う生徒たちを見守っています。

（参考）山名暢「写真と図で見る明治以降の順造館・順造門」（福井県立若狭高等学校『研究雑誌』第38号、2008年）

（参考）山名暢「写真と図で見る明治以降の順造館・順造門」（福井県立若狭高等学校『研究雑誌』第38号、2008年）

◀若狭高等学校正門となった旧順造館正門
福井県立若狭高等学校提供



◆◆◆ 寄贈・寄託資料紹介 ◆◆◆

複製本ができたものから公開しています。

● 齋門六右衛門家文書 (A0128) 寄贈

五本寺村（現勝山市）は九頭竜川支流滝波川・暮見川の扇状地に位置する村で、齋門家は庄屋などの村役を務めていました。

寄贈された資料は、近世資料を中心に、戸口・貢租・村経済・備荒貯蓄関係などの五本寺村の村方文書がまとまってあります。あわせて明治期の地租改正関係資料、齋門家の私家文書も含まれる406点です。



▲「越前北袋内五本寺村御検地帳」
A0128-00201

● 野理五家文書 (J0503) 寄贈

1900年（明治33）から1924年（大正13）にかけておこなわれた、九頭竜川とその支流日野川・足羽川の改修に関する工事設計図35点です。第二期工事にあたる日野川中流域の築堤工事関係図が中心ですが、一部第一期工事にあたる福井市街地の足羽川左岸堤防新築工事に関する図が含まれており、改修前の景観復元にも利用できると考えられます。



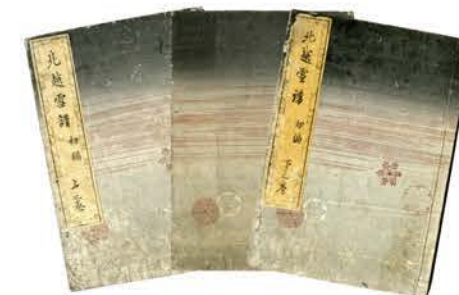
▲「福井市一部分ノ図」（部分）
J0503-00035

● 坪田仁兵衛家文書 (C0005) 寄託

大牧村（現坂井市）は九頭竜川下流右岸流域に位置する村です。坪田家は仁兵衛を名乗り、18世紀後半から台頭し始め、1819年（文政2）には福井藩大庄屋となりました。明治期には県議員や衆議院議員を歴任し、九頭竜川改修に尽力しました。

寄託された資料は、蔵書類です。「北越雪譜」「農業全書」などの他、「写真タイムズ」「戦時画報」などの雑誌類、明治から昭和期にかけての教科書類などがあります。明治期を中心としたすごろくも多数あり、あわせて947点（整理済分）です。資料は大量で、継続して整理を進めています。

なお、坪田家には、明治初年の布令・記録・帳簿類、地租改正関係、九頭竜川改修関連、坪田仁兵衛の政治運動関係の諸資料・書簡類など、明治期の資料が大量に残されており、これらの一部を複製本で見ることができます。



▲「北越雪譜 初編」
C0005-00420～00422



▲「新案 ABC 双六」（部分）
C0005-01240